

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	A-142	21-401 佐賀県医療センター好生館 角南隆史 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
<b>題名（原題／訳）</b>		
Self-Reported Alcohol, Tobacco, and Cannabis Use during COVID-19 Lockdown Measures: Results from a Web-Based Survey COVID-19 のロックダウン期間中の、アルコール、タバコ、大麻使用の自己申告によるオンライン調査の結果		
<b>執筆者</b>		
Vanderbruggen N, Matthys F, Van Laere S, Zeeuws D, Santermans L, Van den Aemele S, Crunelle CL.		
<b>掲載誌</b>		
Eur Addict Res. 2020;26(6):309-315. doi: 10.1159/000510822. Epub 2020 Sep 22.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール、大麻、コロナウイルス感染症、動機、ニコチン、物質使用障害、調査		32961535
<p><b>背景：</b>コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生により、世界的にソーシャルディスタンスとロックダウンの措置がとられるようになった。このストレスの多い時期は、物質使用の増加などの心理的問題につながる可能性がある。</p> <p><b>目的：</b>COVID-19 ロックダウン前とロックダウン期間中のアルコール、タバコ、大麻の消費量の変化と、これらの物質使用の変化の動機を調査する。</p> <p><b>方法：</b>ベルギーでの COVID-19 パンデミックの期間中に、COVID-19 によるロックダウンの前後と期間中のアルコール、タバコ、大麻の消費量の変化を評価し、変化の理由についても尋ねた、ウェブベースの調査を行った。</p> <p><b>結果：</b>合計 3,632 人の回答者（平均年齢 42.1±14.6 歳、70%が女性）が調査に回答した。全体的に、回答者は COVID-19 パンデミック前よりもアルコール消費量（d = 0.21）と喫煙量（d = 0.13）が多いと報告した（いずれも p &lt; 0.001）が、大麻の消費量には有意な変化は認められなかった。ロックダウン期間中により多くのアルコールを消費する要因は、年齢が若い（OR = 0.981、p &lt; 0.001）、自宅にいる子供が多い（OR = 1.220、p &lt; 0.001）、非医療従事者（p &lt; 0.001）、COVID-19 に関連して失業している（p = 0.037）と関連していた。ロックダウン中により多くのタバコを吸う要因は、若年（OR = 0.988、p = 0.027）、現在の生活状況（p &lt; 0.001）、低学歴（p = 0.015）、および COVID-19 に関連した労働状況（p = 0.018）と関連していた。退屈、社会的接触の欠如、日常生活構造の喪失、ハードワークをした後のご褒美、孤独感、お祭り気分が、様々な物質をより多く消費する主な理由であった。</p> <p><b>結論：</b>ロックダウン期間中、ロックダウン前と比較してアルコールの消費量がわずかに多く、タバコの喫煙量もわずかに多かった。リスクのある人のフォローアップに焦点を当てた更なる研究は、COVID 後の時代に適切なケアを提供するために役立つかもしれない。</p>		